

イースターメッセージ

復活の命の光

「わたしたちは、いつもイエスの死を体にまもっています、イエスの命がこの体に現れるために。」コリントの信徒への手紙 二 4章10節

南 望 (日本キリスト教会柏木教会牧師)

誰もが、苦しみや悲しみ、悩み、恐れや不安と格闘しながら生きています。そこから逃れうる者は一人もいません。そのような中、社会に押しつぶされ、こぼれ落ちていくことがあります。そうすると社会から取り残され、孤立し、自分を愛してくれる人などいないのだとの思いになったり、自分の弱さに打ちのめされるということが起こります。

イエス・キリストは、闇を抱えていたり、闇に包まれている人たちのために祈り、寄り添い、慰め、励まして、歩まれたお方でした。誰もが、神さまの愛を受けて、生きる勇気と力を受けて生きられるようになることを願いながら歩んだお方でした。

その働きの中心には、「たとえ、この世があなたを見捨てたとしても、神さまはあなたのことを見捨てない」というはっきりとしたメッセージがありました。そして、そのメッセージは、キリスト自身が実際に経験した十字架による死と復活に示されています。

キリストは、弟子たちに見捨てられ、捕らえられ、「あなたは生きていてはいけない、生きる価値はない」と社会的な断罪を受け、十字架に磔はりつけにされ、苦しみながら死を迎えましたが、その苦しみは、一人の苦しみ、一人の死ではありません。人生と向き合い、悩み、苦しみながら生きている多くの人たちの姿、人としての尊厳を奪われ、苦しむ人たちの姿がそこにはあるのです。

「闇」に包まれる時、また内に「闇」を抱える時、人は孤独を感じるだけでなく、孤立していきますし、人生の歯車が狂っていくということすら起こるのです。「闇」は、他者とつながる力も、他者と共に課題に向き合おうとする意欲も奪います。

けれども、神さまは、キリスト自身が語っていたように、苦しむ人たち、懸命に生きる人たちを愛しておられるし、お見捨てになるようなことはなさらないのです。「闇から光が輝き出よ」と言われた神さまは、死

の闇に引きずり込まれたキリストに復活の命の光をお与えになったのです。

キリストの死と復活には、懸命に生きながらも、欠けや破れを抱えて苦しむ人、悲しむ人、悩む人、不安を抱える人や、社会的な不利益を被っている人、尊厳を奪われている人を神さまは愛し、「闇」の中に復活の命の光を差し入れ、立ち上がる力を与えてくださることが示されています。

聖書には、「わたしたちは、四方から苦しめられても行き詰まらず、途方に暮れても失望せず、虐げられても見捨てられず、打ち倒されても滅ぼされない」という言葉がありますが（Ⅱコリント 4：8-10）、この復活の命の光は、平和と正義と公正を願い、苦しむ人たちに寄り添い、イエス・キリストの生き方に真実があると信じ、一人ひとりの尊厳を大切にしながら連帯しようとする人にも与えられるものです。

様々な問題を抱える社会に関わり、課題解決のために働いても、物事が上手く進まないことがあります。努力しても、力を合わせることも難しい状況に陥ることがあります。先行が不透明になり、「闇」が立ちほだかります。

しかし、神さまは、復活の命の光を差し入れ、様々な困難を乗り越える知恵や力、人との繋がりを与えてくださり、一人ひとりの命が生き生きとなるように導いてくださるのです。

どうか、神さまが、苦しんでいる人、悩んでいる人、悲しんでいる人、恐れや不安を抱える人、生きる力を奪われている人、生きていてはいけないと思込まされている人に、復活の命の光を差し入れてくださいますように。

また、一人ひとりの命が尊重され、喜び合って生きていける社会を築こうと努力している人たちに、困難を乗り越え、復活の命の光を灯すための知恵や力、人と人とのつながりを与えてくださいますように。アーメン